

2026 年度 スポーツメンタルトレーニング (SMT) 指導士全国研修会
2026 年 10 月 16 日 (金) (カクイックス交流センター)

テーマ 『専門性を問い続けるー葛藤・内省・実践の循環ー』

研修会全体の流れとして、セッション 1 (内省) → セッション 2 (未来の構想) →
セッション 3・4 (実践の深化) という段階的な深まりを目指します。

※セッション 1・2 は、全体共通のセッションです。

※セッション 3・4 は、原則<資格取得者>はセッション 3、<資格未取得者>はセッション 4 にご参加ください。

・ 9:45~10:15 受付 (大ホール前)

<午前>

・ 10:15~10:35 資格委員会より (大ホール)

- ・ 委員長挨拶 (武田大輔)
- ・ 資格審査部門より (江田香織)

・ 10:35~11:45 (大ホール)

セッション 1 話題提供

「専門性をめぐる葛藤体験から、SMT 指導士のあり方を見つめ直す」

司 会：中山亜未 (株式会社ミツフクコーポレーション)

話題提供：近藤みどり (宮城学院女子大学)

話題提供：伊藤麻由美 (帝塚山大学)

話題提供：門岡 晋 (金沢星稜大学)

本セッションは、日々の実践の中で直面してきた葛藤に光を当て、その語りを通じて、「SMT 指導士としてのあり方」を参加者一人ひとりが見つめ直す契機とします。現在、多くの SMT 指導士がスポーツや教育といった現場において、理想と現実のギャップ、他職種との連携の難しさ、あるいは自身の専門性の限界など、多種多様な「葛藤」を抱えています。これらは個人の課題として埋没しがちですが、SMT 指導士としての成長における重要な転換点でもあります。そこで本セッションでは、参加者が内容をより深く「自分事」として捉え、主体的な内省を促すため、あえて先達から

の講義形式をとらず、SMT 指導士がこれまでに直面してきたリアルな葛藤体験をストレートに語る構成とします。性急に特定の「答え」を定義・提示するのではなく、登壇者の先生方から自らの葛藤とどう向き合い、どのように次へと繋げたかというプロセスを開示していただき、各自が個人の歩みを振り返る時間といたします。他者の生の実践や心理プロセスを共に見つめ直すことで、私たちが目指すべき「SMT 指導士としてのあり方」もまた、自ずと浮かび上がってくるのではないのでしょうか。ぼんやりと抱く SMT 指導士像を整理し、これからの活動の中で共に歩み、形作っていくための新たな繋がりとなることを目指します。

<午後>

・ 12:45～14:15 （大ホール）

セッション2 レクチャー&ワークショップ

「SMT 指導士を“職業”として考える ―資格取得の先にあるもの―」

司 会：奥野真由（久留米大学）

指定討論：蓑内 豊（北星学園大学）

話題提供：村上妃斗美（プロフェッショナル Ms）

話題提供：武田守弘（広島文化学園大学）

SMT 指導士の資格を取得する、あるいは取得を目指す背景には「SMT の指導を通してアスリートを支援したい」「スポーツの発展に貢献したい」「SMT に関する学びを深めたい」など、さまざまな想いがあります。一方で、実際に SMT 指導士として活動を始めると、SMT 指導を仕事にする難しさや、収入や責任との向き合い方といった、理想と現実のギャップに直面し、葛藤を抱えた経験のある SMT 指導士は少なくないのではないのでしょうか。資格取得はゴールではなく、その後どのように関わり続けるかが問われます。しかし、その葛藤の中から何に気づき、どのように自身の活動を形づくってきたのか、そのプロセスを共有することで、「SMT 指導という職業」の具体像に迫りたいと考えています。

本セッションでは、村上先生、武田先生に、仕事として SMT 指導に取り組む中での、理想と現実のギャップや葛藤と、そこからの気づきを中心に話題提供いただきます。そして、蓑内先生には、話題提供者の発表へのアンサーコメントをいただき、あわせて、SMT 指導士資格創設時の状況や当時の先生方の思いについてもご紹介いただきます。参加者はそれらの内容を受けて、各自の経験や葛藤、不安を共有しながら、自身の今後の活動やあり方について考える機会とします。そして、SMT 指導士資格の原点を見つめ、「私はなぜ SMT 指導士としての活動を続けたいのか」を考えるきっかけ

けとなることを目指します。

- ・ 14:30～16:40（大ホール）※上限 150 名

セッション3 事例検討（資格取得者限定）

「競技審判員に対する心理支援」

司 会：平山浩輔（帝京平成大学）

発 表 者：阿部成雄（法政大学）

指定討論：秋葉茂季（国士舘大学）

指定討論：栗林千聡（専修大学）

- ・ 14:30～16:30（原則、資格未取得者を対象）（大研修室1）

セッション4 レクチャー&ワークショップ

「SMT 指導士としてのあり方を考える—どんな専門家になりたいか—」

司会・進行：野崎真代（日本大学）

話 題 提 供：平木貴子（日本大学）

話 題 提 供：松原旭飛（日本体育大学大学院）

セッション1では、登壇者より、SMT 指導士の資格取得に至るまで、あるいは資格取得後も実践を行う中で体験した葛藤やそこでの内省体験について話題提供がなされます。また、セッション2では、SMT 指導士を職業として捉え、その具体像を考えるきっかけとなる話題提供がなされます。これらを受け、資格未取得者は、どんな SMT 指導士になりたいと考えるでしょうか。SMT 指導士の未来を見据えたときに、どのようなことが大切になるでしょうか。本セッションでは、まず、資格取得前から現在に至るまで異なる経路を歩んで来られたお二人の先生に、それぞれの実践活動やそこでの躓き、不安、葛藤といった体験について話題提供していただきます。そして、ワークショップにて、参加者それぞれが抱える不安や葛藤にどのように向き合っているのか共有していただきます。こうした体験の共有を通して内省することやスーパーヴィジョンなどの大切さに目を向け、参加者が改めて、専門家としての自身の今後のあり方について考え、「どんな SMT 指導士になりたいか」を整理する機会を設定します。参加者の皆さんがそれぞれの目指す SMT 指導士像を確認し、SMT 指導士として大切なことを共有することを目指します。

以上